



合格内定の生徒に続け！

1月11日（土）・12日（日）・13日（月）の3連休、新聞やTVでも報道されたように、私立高校や国立高専の推薦入試が行われました。その合格内定が家に届き、今日現在の津幡南中学校の合格内定した人は約20名います。おめでとうございます。津幡南中学校に勢いをつけてくれました。**正式な合格決定（発表）は一般受験の人と同じ日**になります。合格内定の生徒は部活動や学習、校外での活動に頑張り、成果を出し、高校でも十分に活躍が期待できるということで推薦されました。そして、合格内定しました。（内定はあくまでも内定です。軽はずみなことをすると取り消される可能性があります。また、そのうち多くの生徒は1月31日の一般入試を受験します。気をゆるめず、全力で臨んでください。）私立高校を一般受験する皆さんも、まだ11日間あります。多くのことを吸収しようという強い気持ちで頑張りましょう！！そして一緒に「合格」をつかみとりましょう。そのためには**「答案の書き方」**がとても重要になります。今からの追い上げに参考になるものがたくさんあるのではないでしょうか。次の心得を必ず読んで、おおいに活用してください。

入試の答案を書くときの心得

全体的な心得

1. 家を出る前に、**腕時計・受験票・筆記用具・学習用具**を再確認する。
 - ・鉛筆は、BかHBを6本用意する。コンパス・定規・消しゴム（2個）なども忘れない。
 - ・腕時計も必ず用意する。（辞書機能や電卓機能付きは禁止）
2. 問題が配付されたら、**受験番号と氏名**をまず最初に書く。
 - ・全部に一通り目を通して、難易や取りかかる順番を判断する。
 - ・問題文の重要な部分や必要な箇所に印を付ける。
 - 問い合わせでは、**何を要求しているのか正しくつかむ。**
 - ・記号、番号、語句、文章のいずれで答えるのかを確かめる。
 - ・記号や番号で答える問題は、必ず書く（**解答欄を必ず埋める**）。
3. 答案は、誰が見てもわかるような字で、**はっきり濃く大きく書く。**
 - ・自分のくせ字、紛らわしい字を正しく直すよう努力する。
 - ・誤字、脱字、当て字、紛らわしい字や書き方は減点される。
4. 試験場では、周囲を気にせず落ち着いて**平常心**で臨み、自分の実力を發揮する。
 - ・キヨロキヨロしたり、隣の人の答案に視線をやるなどしない。
 - ・早く解き終えたり、わからなかったりしても、うつ伏せになつたり寝たりしないこと。
5. **空欄はできるだけ作らないようにがんばる。（関係のないいたずら書きはしてはいけない！）**



各教科の具体的な心得

【国語】

1. 問いを注意深く読み、何をたずねているのか、どんな形で答えを求めているのかをしっかりつかむ。
2. 長文は、文章をよく読み、何を述べているのかをしっかりつかむ。
3. 答えは、文章中の言葉を使って書くのか、自分の言葉で書くのかということに注意する。
4. 設問に対する答えになっているのかどうか、文末に注意して書く。
　〈例〉どんな理由か。→「～から。」　　どんなことか。→「～こと。」
5. 指示語は文章に即した言葉で、指している範囲や文末に気を付けて答える。
6. 主語を問われた場合は、文法上の問題であるから、文節で答える。
7. 要約する場合は、文中の重要な言葉を見落とさないでまとめる。
8. 答案に書く文字（特に漢字）は、すべて楷書で丁寧に書き、くせ字や略字は書かない。



【社会】

- 問題文を最後までしっかり読んで、求められている答えが何かをよく確かめる。
- 記述式の出題が多くなったので、問題文をよく読み、何を問われているのかを的確につかむ。そして、ポイントを絞って簡潔に書く。
- 社会の問題は、図表を正しく読みとることが大切である。
 - 全体の傾向をとらえてから、数値を見て特徴を読みとる。・地域ごと、年度ごとに比較してみる。・割合の最も多い項目に注目する。
- 選択肢や資料から抜き出す語句は問題に表されているものをそのまま書く。(勝手に変えたり省略したりしない。)

【数学】

- 証明や説明する問題、作図などの問題は、答えを求めるために使った途中計算や考え方を少しでも書く。
自信が無くても、消さないで必ず残しておく。(中間点がもらえることがあるので)
- 問題を見て、ひらめかなかったり、込み入ったりしたものは後回しにするなど、時間配分を考える。
- いくつかの小問がある問題は、(1) がやさしいことが多い。また、(2) は(1) を前提としているのか、独立した問題かをよく考える。
- 文章題は、求めるものが何で、何を文字(単位を付ける) とするのかを必ず書く。文章中の数量に〇などの印をして、それを式の何処かに使う。
- 計算では、次の点に気を付けて、確実に正解を!
 - 常に、+ - の符号を意識して計算を進める。・「通分か(分母を払えない)」「両辺に何かをかけて分母を払えるのか」を区別する。
 - 因数分解なのか、2次方程式(両辺がある) なのか、勘違いしないようにする。

【理科】

- 問題を一通りみて、得意分野から解いていくとよい。
- 授業でやった実験・観察が出題されることが多いので、その目的・過程・操作上の注意点や結果・まとめをよく押さえておく。
- 化学式を正確に書く(文字サイズや数字の位置・大きさ)。三大化学式はモデルと合わせて押さえておく。
また、試薬の特徴(何を調べることができ、どんな変化を示すのか)を押さえておく。
- 単位に気をつける。(単位を理解しておくと計算方法がわかるので確認する。)
〈例〉密度の単位は、 g/cm^3 だから、質量(g)を体積(cm^3)で割ると求められる。
- 文章で説明する問題では、ポイントになる用語を必ず入れ、長すぎないように書く。
- 図が書いてある問題は、問題を読みながら図の中に必要な数値を記入しながら読むとわかりやすい。また、グラフから数値を読みとるときは、計算しやすいところを選ぶ。

【英語】

- リスニングがあるときは、
 - 放送が始まる前に、問題用紙の絵や解答欄に目を通しておく。問題が印刷されている時は、あらかじめ読んで、質問内容を予測する。
 - ポイントになる語を早くつかまえて、内容を予測する。
 - 簡単なメモを取る。解答欄は絶対に空白にしない。
- つづりや英文を書くときは、
 - 文字を正確に書く(hとk、bとh、uとv、aとo、mとn、wとuなど区別を)。
 - マーク(., ? ! “ ”など)を忘れないでしっかり書く。
 - 文章の最初は必ず大文字で書く。
 - 時制(動詞部分)や語順に注意して書く。
 - 解答した英文は、誤文訂正のため意味を考えて見直す(前置詞や代名詞など)。
- 意味を考えるときは、
 - 何を言おうとしているのか、内容をよくつかんで、今までの構文をよく思い出す。
- 長文のときは、
 - 全文を読んで、何を言おうとしているのか、まず大意をつかむ。
 - わからない単語が出てきても、前後関係でその意味を想像する。
 - 主語と動詞をはっきりとつかみ、主部と動詞をはっきりさせる。
 - 指示語の内容はその直前にある場合がほとんどなので、正確に探して本文にそって答える。
 - 日本語に直したら、それが正しい日本文か、漢字の間違いがないか確かめる。
- 曜日、月、季節、数字、また、教科書で太い字で示されている語は確実に書けるようにしておく。

